

京都外国語大学英語教育研究会主催

より良い英語教育を考える会

場所：JR京都駅前キャンパスプラザ京都 6階
京都外国語大学サテライト教室

日時：7月、8月、12月を除く

原則として、

第4または第5日曜日 13:30~17:00

参加費：会員300円（年会費なし）非会員500円

案内送付ご希望の方は

鈴木寿一 j_suzuki@kufs.ac.jp

まで、メールでご連絡ください

ラウンド制指導法の実際とその効果

京都外国語大学

鈴木寿一

j_suzuki@kufs.ac.jp

ラウンド制指導法とは？

ことばの知覚・認識・生成のメカニズム研究

第二言語習得研究

日本での教育現場での授業実践と英語教育研究

に基づき、

多様な方法を用いて、いろいろな角度から一つの教材を学習させ、

言語コミュニケーションの基礎となる言語処理能力を向上させ、

4技能をバランス良く伸ばし、

英語によるコミュニケーション力と入試に対応できる英語力の育成

を目指す指導法

「ラウンド制指導法」の特長

1. 「ラウンド制指導法」はだれにでも適用可能

中学生・高校生・大学生

学力上位層から下位層まで

2. やる気さえあれば、どんな教員でも指導できる。

教員歴が短くても(1年目の教員でも)、
教職経験が長い教員と同等またはそれ以上の
効果的な指導が可能。

ラウンド制指導法の効果

(1) 鈴木(2007)

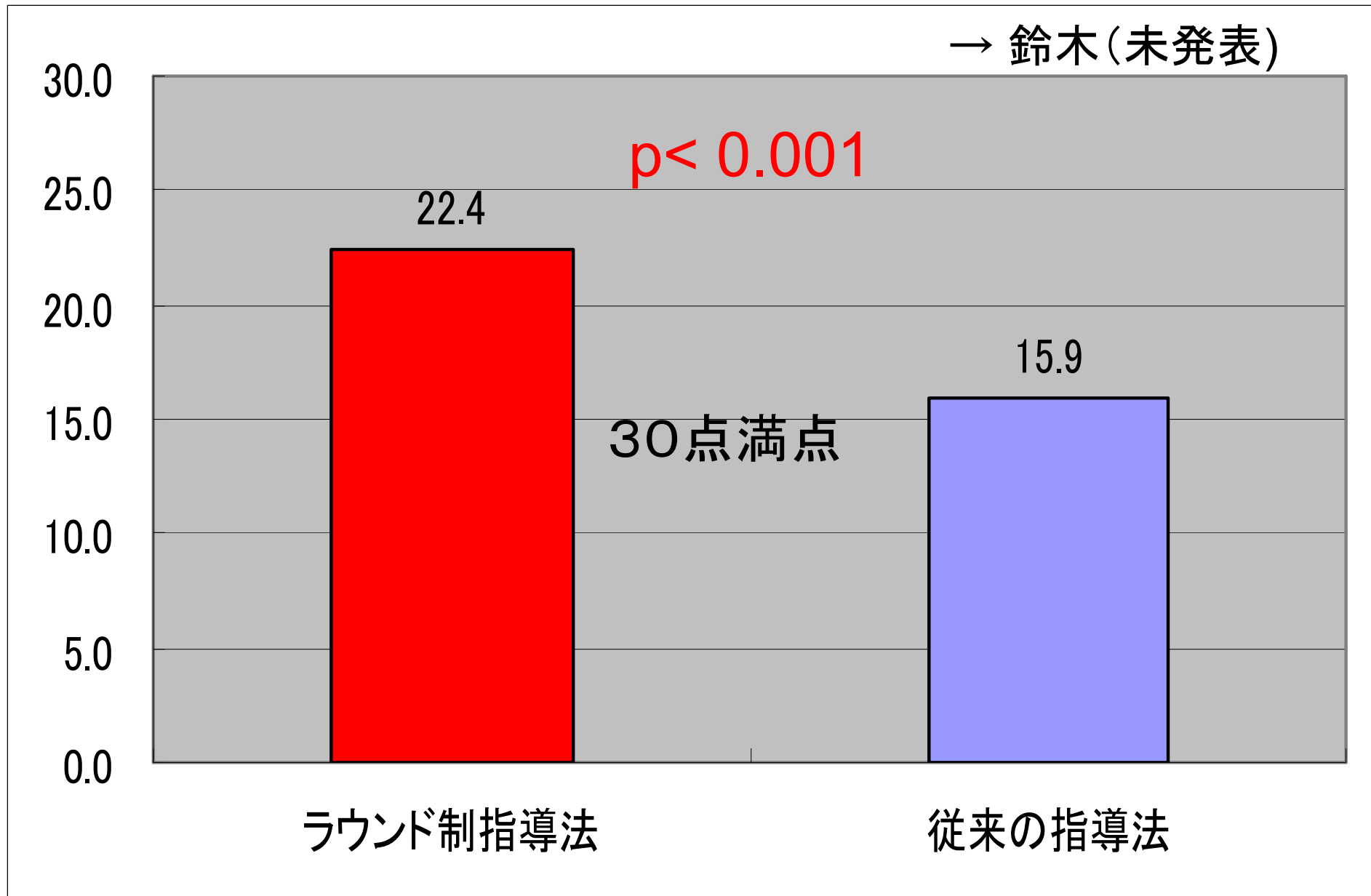
リスニング

理解を伴ったリーディング・スピード

ラウンド制による指導 > 従来の指導

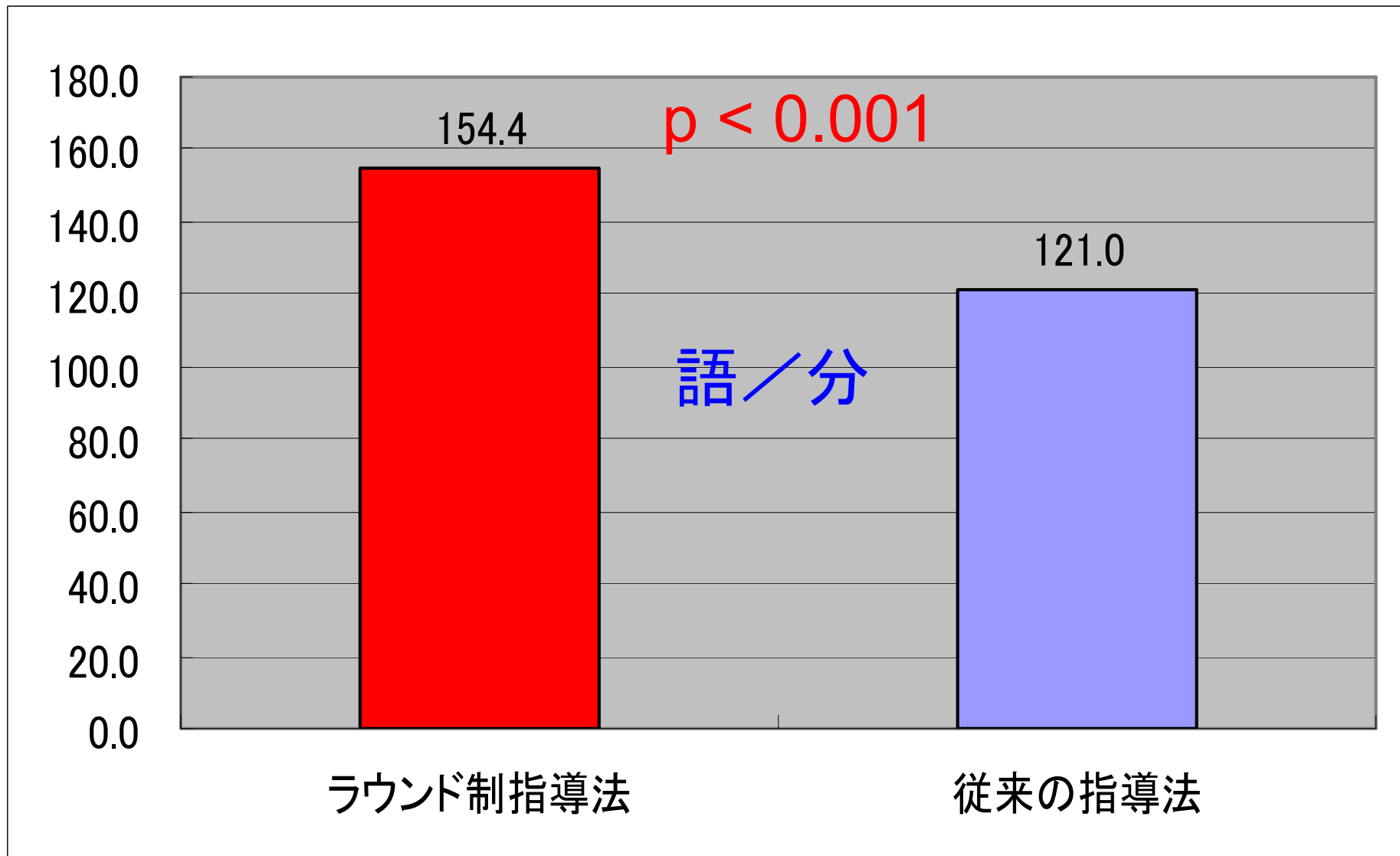
ラウンド制指導法の効果（リスニング）⁶

→ 鈴木(未発表)



ラウンド制指導法の効果（読解効率）⁶

→ 鈴木(未発表)



ラウンド制指導法の効果

(3) 高橋(2006, 2007)

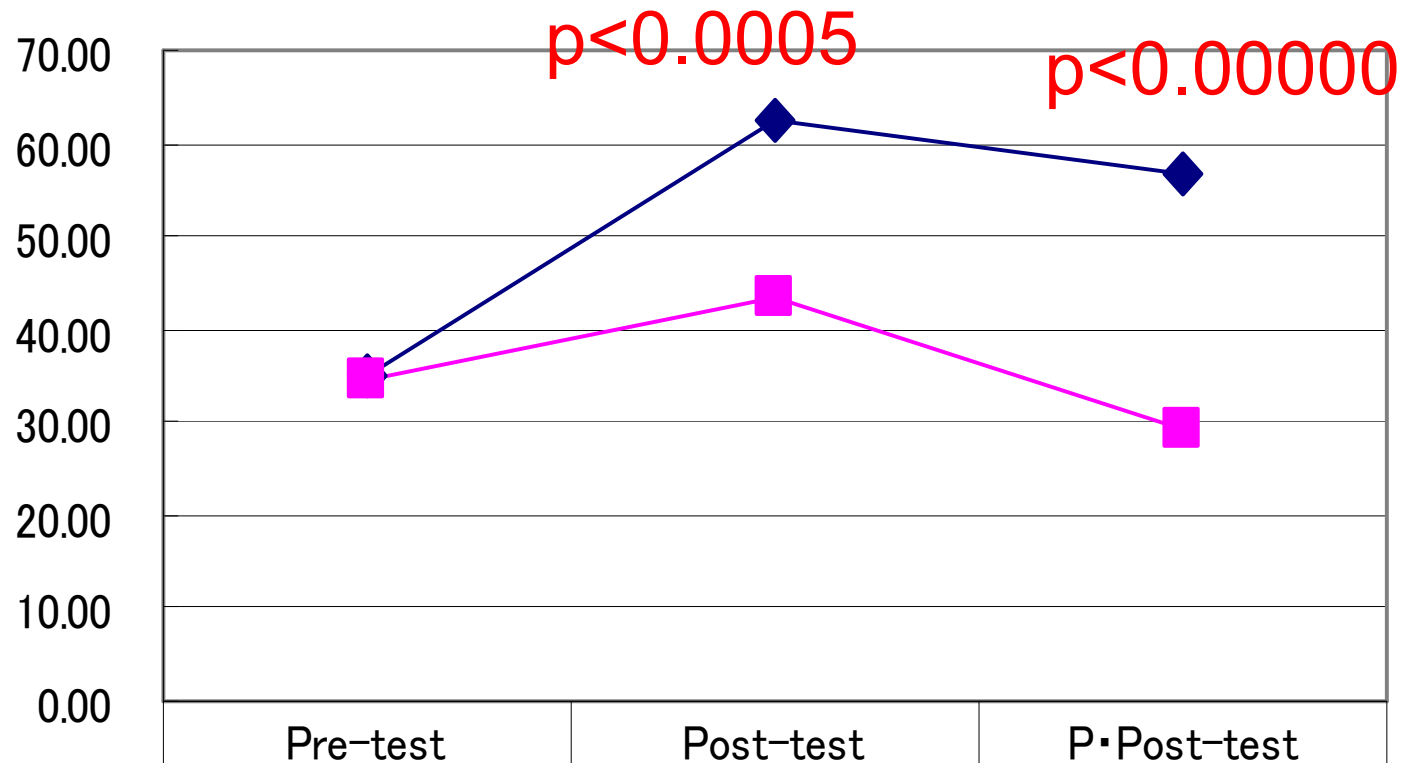
英語表現の定着

サマリーの作成(言語産出)

ラウンド制による指導 > 従来の指導

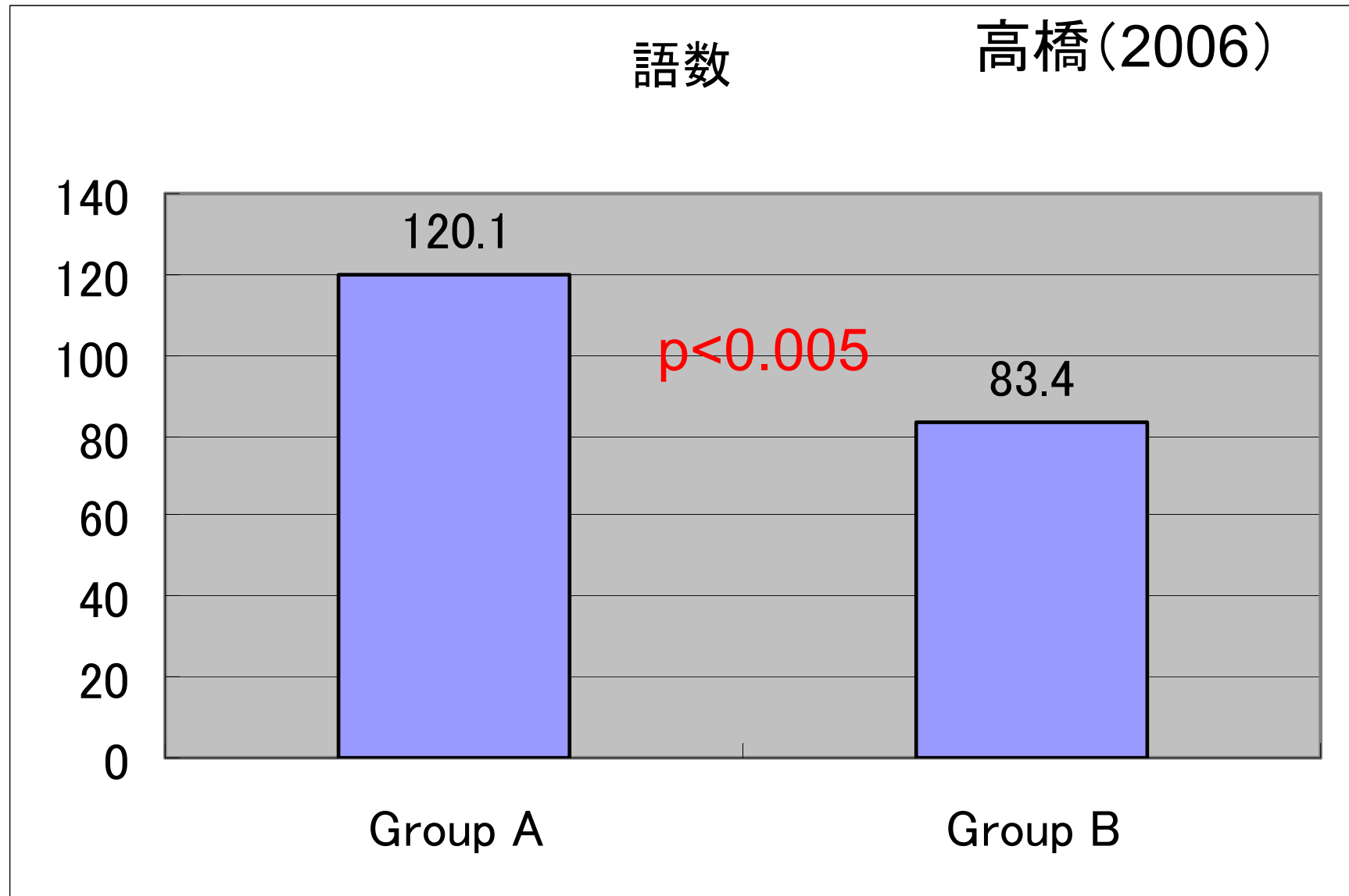
教員歴が短くても、教職経験が長く優秀な教員よりも
効果的な指導が可能。

語彙・表現の定着効果

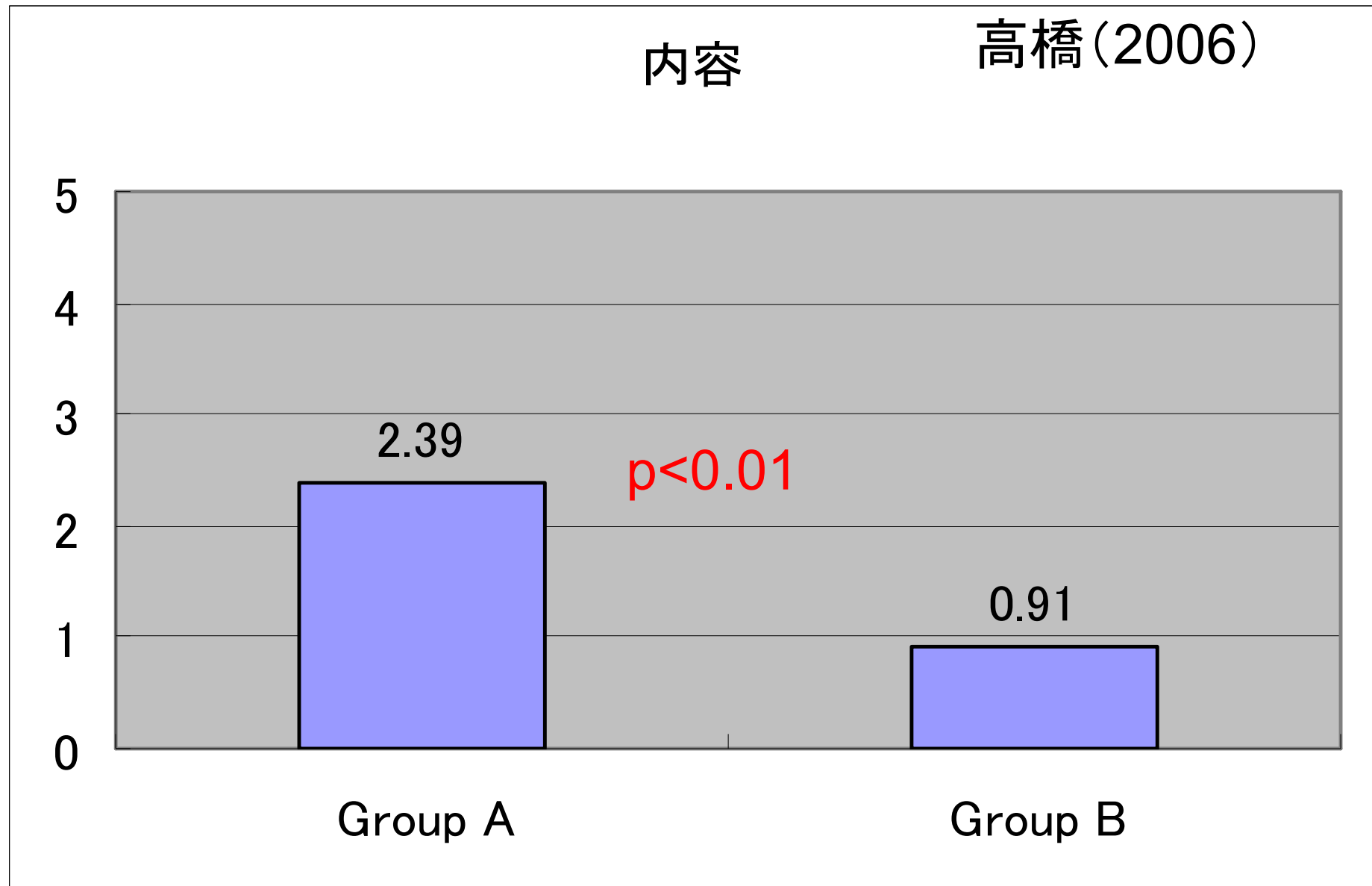


◆ 実験群	35.12	62.5	56.5
■ 統制群	34.45	43.5	29.4

繰り返し学習の英文要約への効果1



繰り返し学習の英文要約への効果2



ラウンド制指導法の効果

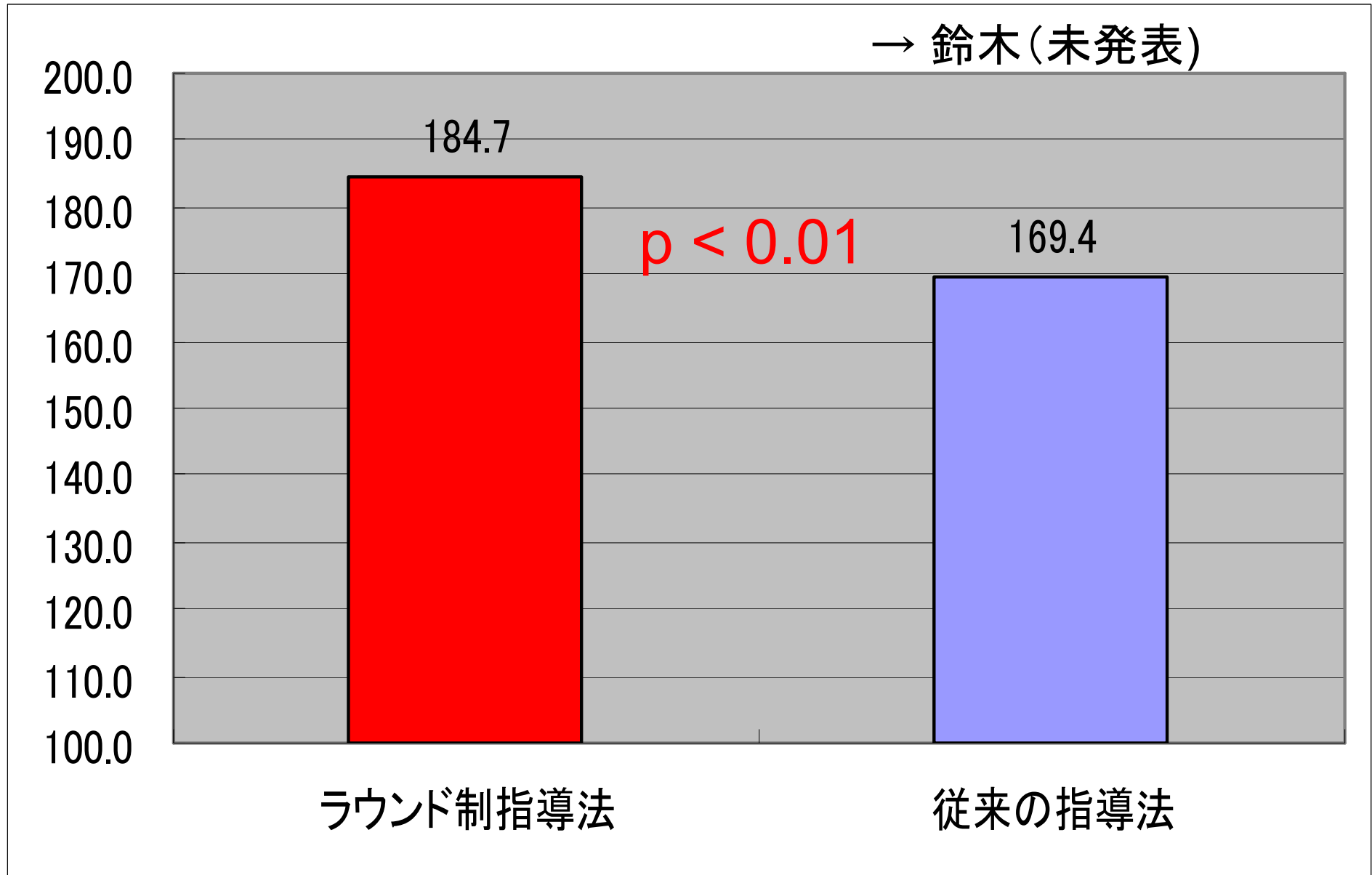
(4) 鈴木(2007)

センター試験自己採点結果

記述模試結果

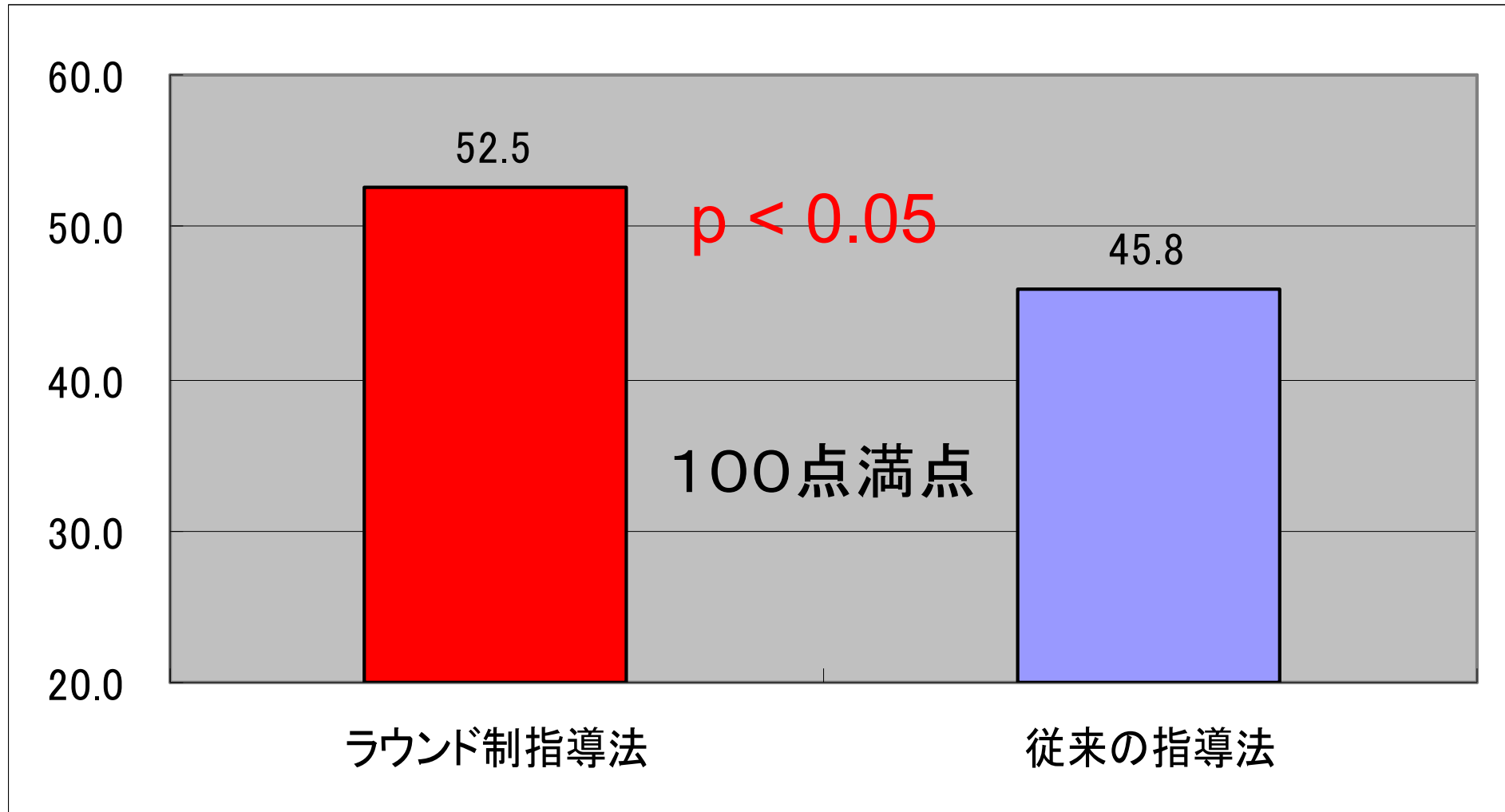
ラウンド制による指導 > 従来の指導

ラウンド制指導法の効果(センター試験)⁶



ラウンド制指導法の効果（記述式模試）⁶

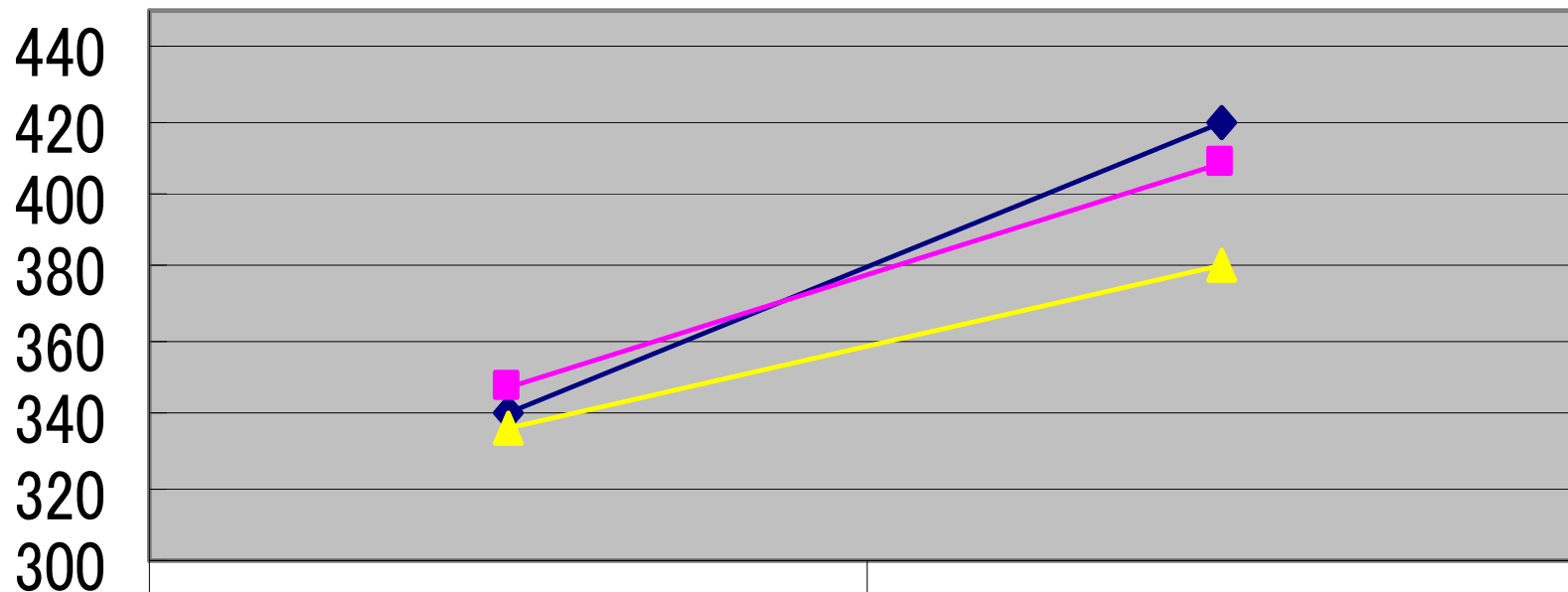
→ 鈴木(未発表)



(4)ラウンド制指導法の効果(GTEC得点の伸び)

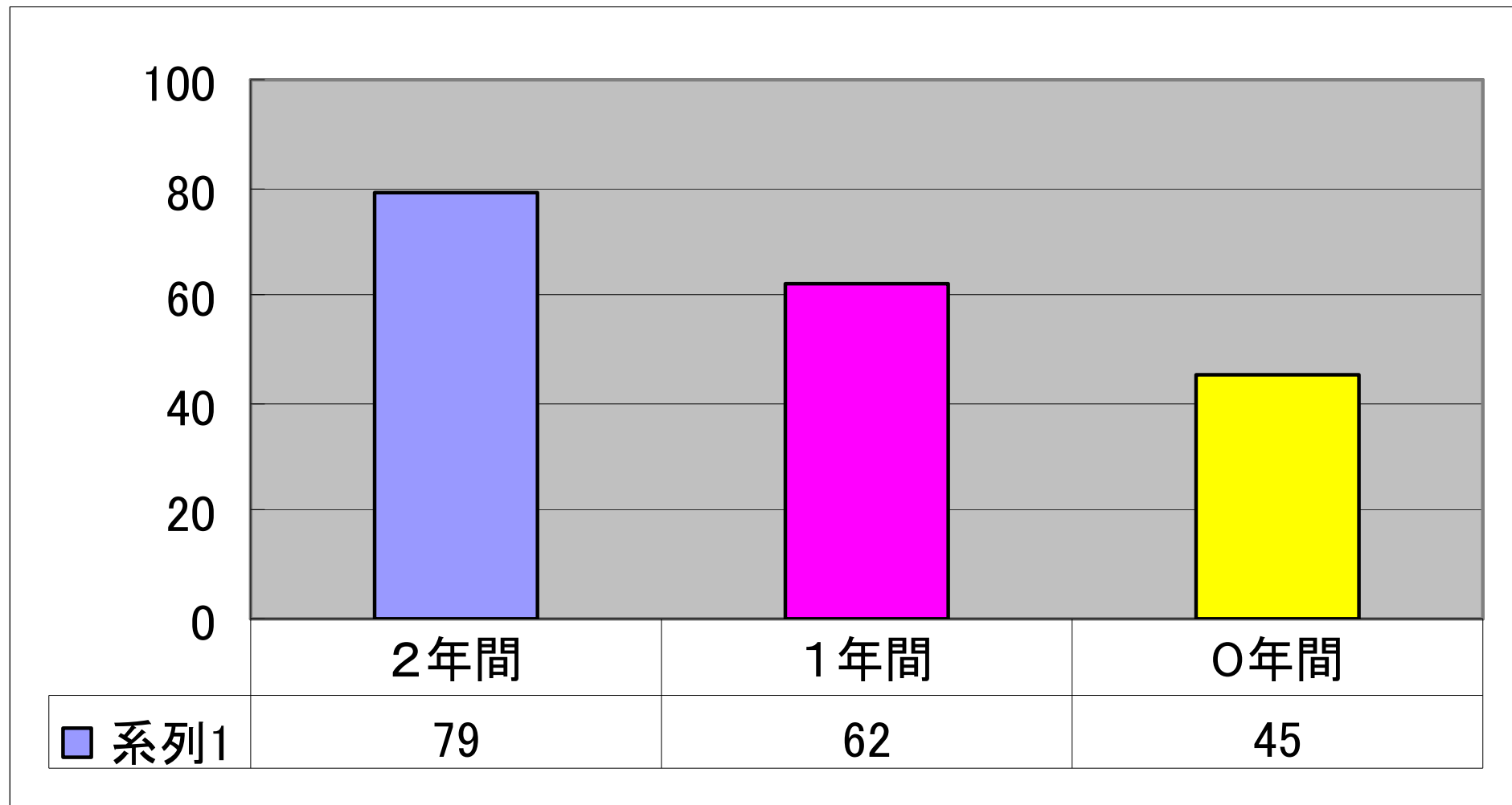
- ラウンド制実施学年 > 従来の指導実施学年

(4)ラウンド制指導法の効果(GTEC得点の伸び)



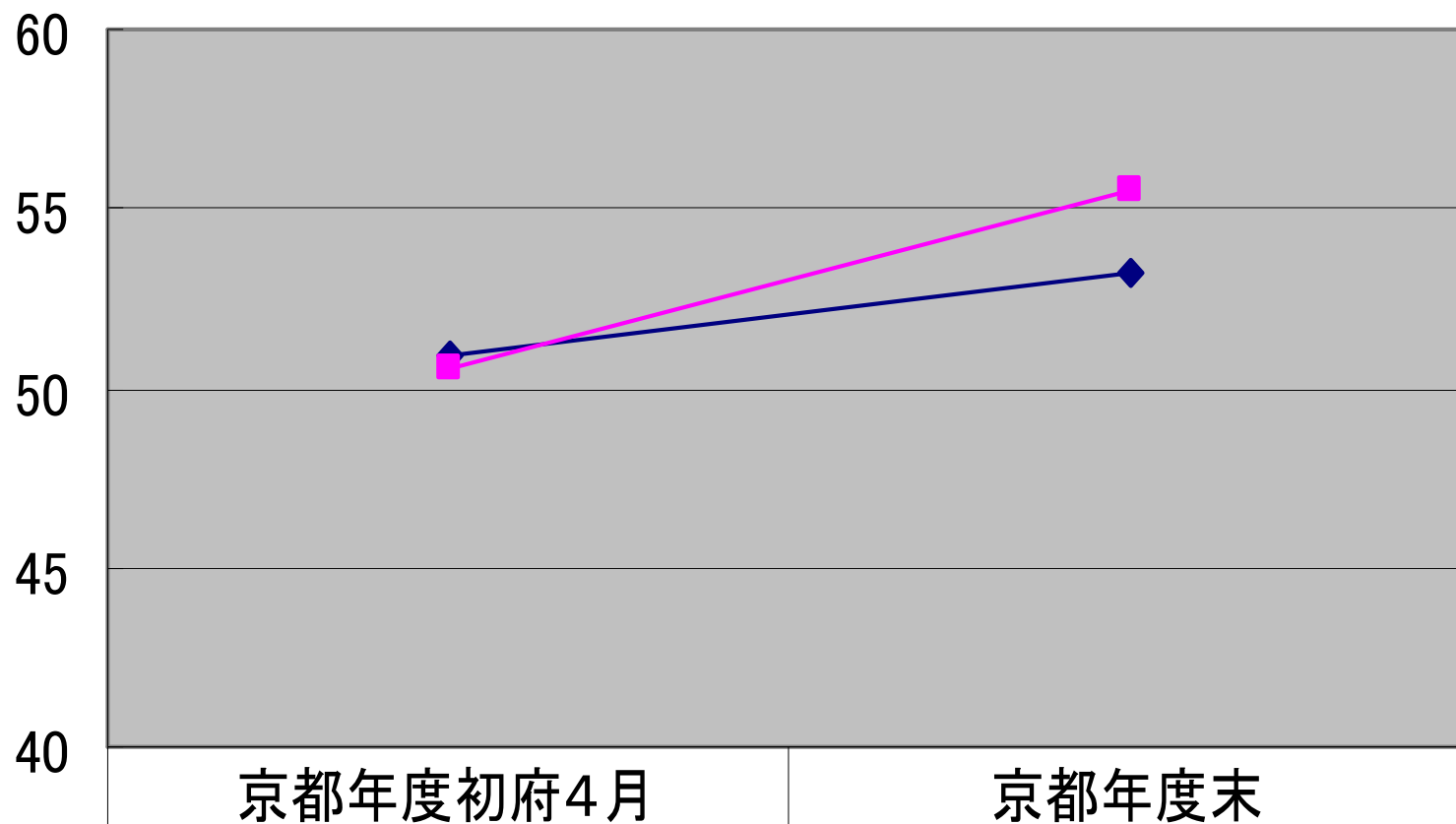
◆ 2年間	340	419
■ 1年間	347	409
▲ 0年間	336	381

ラウンド制指導法の効果(2年間のGTEC得点の伸び)



教員歴が短くても、教職経験が長く優秀な教員よりも効果的な指導が可能。

(6) 京都府診断テスト結果



—◆— H20入学生

50.86

53.25

—■— H21入学生

50.54

55.53

(5) 京都府診断テスト結果

- ・ **ラウンド制実施学年** > 従来の指導実施学年

(6) 私立進学校(A中学)の中学3年生の模試成績

ラウンド制未実施学年: A校 < B校

ラウンド制実施学年: A校 > B校

(7) 私立進学校(C高校)

ラウンド制実施学年 > 従来の指導を実施学年

- ・ センター試験の学校平均点と全国平均点との差が拡大。
- ・ 全国模試の偏差値向上
- ・ GTECのスコアの上昇
- ・ 英検合格者の増加

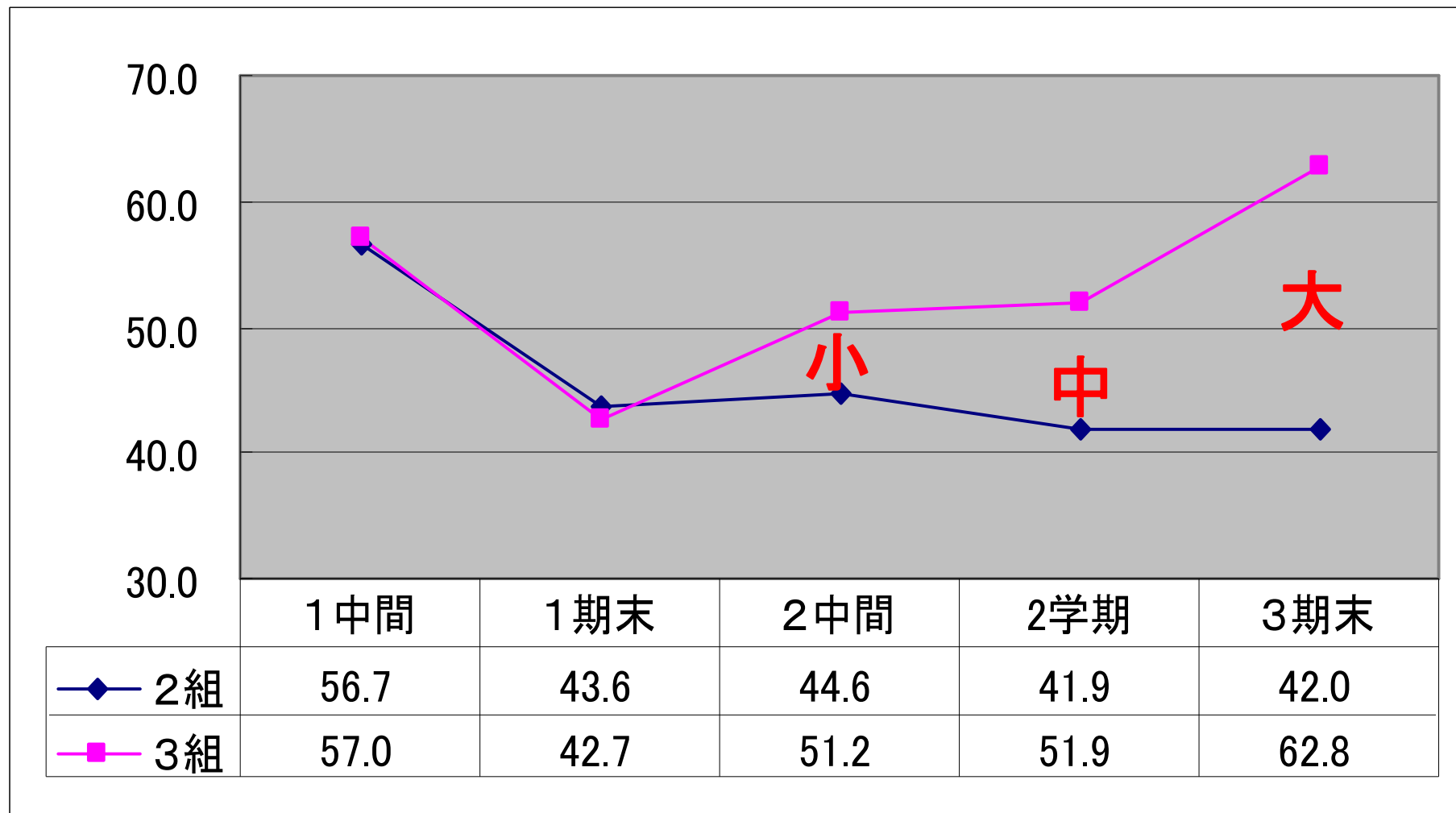
(8) 1学期間文法訳読で指導された高校1年生に
対するラウンド制指導法の効果
中川(2014)

①読解速度と音読に対する効果

	2学期開始時点	3学期
読解速度	非常に遅かった	速度向上
音読		
声	非常に小さかった	大きくなった
パラレル リーディング	できなかった	リピート練習なしでも CDの朗読でできる ようになった

2組 vs. 3組

平均点と効果量



②定期考査の平均点から見た効果

4月当初では英語力に差がなかった4クラスの中での2学期中間考査以降の成績
ラウンド制 > 文法訳読

③教材の内容理解度の変化に見られる効果

第1ラウンド(課全体を読んで各パートのタイトル選び)

9月指導開始時点

選択肢があっても 正解できない生徒が大半

3つの課学習後

知らない語いがあっても、タイトルを選べるようになった。

②第2ラウンドの要点を問う質問

9月指導開始時点

- ・1文の理解で答えられる質問には正解できた
- ・2文以上の理解が必要な質問には答えられなかった
- ・本文の内容から推測することを求める質問には答えられなかった。

3か月後

2文以上の理解が必要な質問にも答えられるようになった。

本文の内容から推察することを求める質問にも答えられるようになってきた。

(9) 高校3年生 ラウンド制 vs. 文法訳読
マーク模試成績 標準クラス vs. 発展クラス
藤田(2014)

標準クラス ラウンド制
発展クラス 文法訳読

5月 標準クラス < 発展クラス 効果量小

8月 標準クラス > 発展クラス 効果量小

11月 標準クラス > 発展クラス 効果量小

(10) 高校3年生 ラウンド制 vs. 文法訳読記述
記述模試成績 標準クラス vs. 発展クラス
藤田(2014)

標準クラス ラウンド制
発展クラス 文法訳読

5月 標準クラス \doteq 発展クラス 効果量なし

8月 標準クラス $<$ 発展クラス 効果量小

11月 標準クラス \doteq 発展クラス 効果量なし

ラウンド制指導法における発問

(1) 質問の役割

- 生徒の内容理解度のチェック
- 生徒の支援(学習内容の整理と理解の促進)
- 生徒のトラブル・スポットの発見

(2) ラウンド制指導法における発問の特徴

①教材に出て来る順には発問されない。

②階層化されている。

概要を問うもの タイトルをつけさせる(選ばせる)



要点を問うもの タイトルの中身を問う



細部を問うもの 要点をさらに詳しく述べた内容を問う

代名詞が指すもの

文中で説明されていることを要約した語句の内容を問うもの
要点を問う発問を考える上でヒントとなるもの

③相互につながりがある。

(3) ラウンド制指導法で用いられる発問のタイプ

(1) 事実を問うもの

A 概要を問うもの

B 要点を問うもの

C 細部を問うもの

Bの発問

答えるには、1文を超えた内容を理解する必要がある問いを含めておく。

(2) D 推測を求めるもの

(3) E 個人の考えを求めるもの

(4) ラウンド制指導法における使用言語 新出(未習得)文法事項・構文の指導と音読 J + E



理解(第1~3ラウンド) J中心



文構造等の説明・音読(第4ラウンド) J中心



音読(第5ラウンド) E中心



和訳・音読(第6ラウンド) J + E



再生(Q&Aほか)(第7ラウンド) E



コミュニケーション(第8~9ラウンド) E

(5) 発問と答えの使用言語

段階	使用言語		問答の難易	
	問	答	問	答
内容理解	日	日	D	D
内容理解	英	日	E	D
内容理解	日	英	D	E
内容理解	英	英	E	E
内容理解→音読後	日	英	D	E
	英	英	E	E
前時の復習	英	英	DorE	DorE
課全体の復習	英	英	DorE	DorE

(6) ラウンド制指導法の流れ・技能・発問

- 第1ラウンド 語い指導と概要理解LR 概要を問うQ
- 第2ラウンド 語い指導と要点理解LR 要点を問うQ
- 第3ラウンド 語い指導(復習)と細部理解LR 細部を問うQ
推測を求めるQ
- 第4ラウンド 難しい文の構造分析と音読 RS
- 第5ラウンド 教材本文の音読 LSR
- 第6ラウンド(必要に応じて) 難しい文の和訳・音読 LSR
- 第7ラウンド 再生中心のアウトプット活動LSR(Q&Aなど)
概要・要点・細部を問うQ
- 第8ラウンド サマリーなどの産出中心のアウトプット活動WS
- 第9ラウンド 狭い意味でのコミュニケーション活動 LSRW
推測を求めるQ・個人の考えを求めるQ

ラウンド制による指導の留意点

- ①予習 原則として要求しない。
予習をさせると、自分で音声化できないことや、
戻り読みの悪癖がつくなど、問題点が多い。
- ②新出あるいは学習者が未習得の文法事項・構文
事前に指導しておく
- ③新出語い及び学習者が未習得と思われる語い
語いリストを作成して配布する。
推測可能な語 & 辞書を引かせる必要のある語
訳語は提示しない
内容理解活動前にクイック・レスポンスの手法
を用いて指導する。

ラウンド制による指導の留意点

- ①新出文法事項・構文
事前に指導しておく
- ②予習
要求しない。
- ③新出語い・学習者が未習得と思われる語い
は語いリストを作成し、配布する。
- ④授業形態
一斉 グループ ペア 個人
を弾力的に使い分ける。

② 内容理解活動

英文を黙読させる際には、句や節単位にポーズを入れた朗読を聴かせながら黙読させる。

③ 授業形態

一斉 グループ ペア 個人
を弾力的に使い分ける。

④ 教材の指導単位

生徒の英語力、教材の難易度によって

- ・本文全体
- ・各パートごと
- ・パラグラフごと